



YiO

リーオ

小貝川大水害 20周年増刊号

特集

昭和61年8月 小貝川大水害から20年
自然の猛威を胸にきざみ、
災害防止の大切さを考えませんか？

●鬼怒川・小貝川フォトコンテスト作品募集中!

一般の部

水害・復興の部

応募締切 7月24日(月) 必着

●8月4日(金)

「防災・減災フォーラム2006 in 茨城」開催
小貝川大水害から20年～洪水から自らをどう守るのか～



Special Issue
2006
summer

自然の猛威を胸にきざみ、 災害防止の大切さを考えませんか？

昭和61年8月
小貝川水害プレイバック



地域を襲った台風10号による甚大な被害

24時間で
300mmを
越える雨量

氾濫面積
4,300ha

浸水家屋
4,500戸

昭和61年8月、台風10号による集中豪雨が小貝川流域を襲い、水位がほぼ全川にわたって計画時の基準数値を越え、150年に1回と言われるほどの出水となりました。被害は下館市（現筑西市）の面積の約4分の1を泥水の海に変え、下流の下妻市、石下町（現常総市）、水海道市（現常総市）などにまで及びました。このような被害がふたたび起きないようにするために、直轄河川激甚災害対策特別緊急事業（激特事業）が行われ、被害の大きかった母子島（はこじま）地区を遊水地に造成するとともに、その地区内に点在していた5集落を集団移転させ、遊水地内に新しい町をつくるという全国でも初めての改修事業が行なわれました。

● 洪水はなぜ起きた？ ●

原因1 河川の特徴
小貝川は流域の86%が平野であり、河川の勾配が緩いため、洪水の継続時間が長く、氾濫時の出水が引きにくいという特徴があります。

原因2 記録的な集中豪雨
8月4日、小貝川流域は台風10号による集中豪雨で24時間雨300mmという記録的な集中豪雨に見舞われました。雨量レーダーによれば小貝川流域の強雨域が約6時間動かなかったそうです。水位はみるみる上昇。翌8月5日午後、雨が上がった安堵感にひたっている人々の目の前で破堤したのです。

決壊し堤防から流れ出た濁流が家や田畑を飲み込んだ



※市町名は昭和61年当時のものです。

田畑が浸水し家の軒下まで水が…



洪水被害の大きかった小貝川、大谷川合流点付近

自然の猛威がまちや暮らしを襲った…



浸水した田畑を前に呆然とするしかなく…



軒下まで水に浸かった家(元飯田)



洪水に取り残された自動車

繰り返されてきた小貝川の災害

●主な災害

発生日	発生原因	被災市町村	被害状況
昭和2年9月	台風による豪雨	茨城県水海道市	床上浸水 289棟
昭和10年9月	台風による豪雨	茨城県北相馬郡高須村	倒壊家屋 109棟 床上浸水 2,950棟
昭和13年7月	台風による前線豪雨	栃木県真岡市・茨城県協和町、下館市、明野町、関城町、下妻市、石下町、豊里町、水海道市、谷田部町、谷和原村	死者・行方不明 9名 倒壊家屋 68棟 床上浸水 5,787棟 床下浸水 (2,863 棟) () は不明含む
昭和13年9月	台風による豪雨	茨城県関城町、明野町	倒壊家屋 9棟 床上・床下浸水 416棟
昭和25年8月	熱帯低気圧による豪雨	茨城県取手市、藤代町	死者・行方不明 3名 倒壊家屋 1,874棟 床上・床下浸水 5,468棟
昭和56年8月	台風による豪雨	茨城県龍ヶ崎市、藤代町、利根町、河内村、新利根村	床上浸水 1,580棟 床下浸水 3,960棟

※市町村名は災害当時のものです。

あの時を振り返って

渡辺喜久夫さん 筑西市旭ヶ丘在住(元母子島)

昭和61年8月4日、私たちは土浦に用事があり出かけておりましたが、午後より相当の雨が降り、妻と2人、これでは大水になるのではないかと心配して帰ってきました。でも私たちは床上までは全然考えておりませんでした。

夜に入ると、殴りつけるような土砂降りの大雨となり、10時頃役所の広報車により水害の注意が流されました。一晩中心配して見回っていたのですが、早朝より屋敷内に水が入り、5時頃よりみるみる増水し、あつと言う間に床上に畳を上げる間もなく冷蔵庫、仏壇、ダンスが次々に引っ繰り返る始末、その増水の早いこと、想像もつかない速さでした。孫がいたのでその非難が精一杯、自分たちは何もかもあきらめ首まで水に浸かって助けを待ちました。幸い土建屋さんの舟が来てくれ体ひとつで堤防に避難しました。

自分たちは親戚に夜はお世話になり、日中は親戚中の助けを受け後始末。こんな思いは2度とたくないと思いました。

幸い激特事業と言うことになり、関係機関のお骨折れにより移転も無事完了したわけです。また本年も雨期を迎えるわけですが、安心して生活できることを幸せに思っております。

鈴木英真さん 筑西市旭ヶ丘在住(元飯田)

大水害からもう20年目を迎ようとしています。昭和61年8月、あの日の大水を思い出しますと今でも恐ろしくなります。飯田は昔から大水の出るところと子供のころから覚えています、あのような大水害は生まれて初めてでした。

実は昔から地区でも一番土地の高いところに建っていたから床上にはならないと思い、荷物も何も2階に上げず水びたしになってしまいました。年寄りから昭和13年の水害でも、家は床上にならないと言われていたので、安心したためだと思えます。

今ではあのような大水害にならないよう5集落の集団移転が出来、安心して暮らしています。これはひとえに建設省(当時)、市役所、地権者の皆さんがご協力くださったたまもの心から感謝しています。

● 今後は集団移転地、旭ヶ丘が一体となり、良いまちづくりをしていきたいと思っています。

小貝川激特事業プレイバック

災害に強い小貝川をつくり、遊水地に新しいまちが生まれた



空から見た昭和61年8月の洪水による被害の様子

母子島遊水地の整備

昭和61年8月の洪水で冠水した母子島、飯田、一丁田、椿宮、小釜の5集落には、新たに盛土した造成地に移転していただき、その跡地を含む約160haを堤防で囲み、遊水地を建設しました。母子島遊水地は通常は農地として利用できますが、小貝川が増水したときは、その水を遊水地に導き入れて溜め込み、洪水の危険が去った時点で小貝川に戻すことで、下流部への水量を減らし、小貝川全体の安全性を高めます。母子島遊水地には、洪水時に約500万m³の水を溜めることができます。

治水事業概念図



直轄河川激甚災害対策特別緊急事業 **ゲキトクって何だ!?**

小貝川激特事業のポイント

POINT

1

治水対策

小貝川と大谷川の合流点で頻りに浸水被害にあった5集落・109戸が二度と水害にあわないよう新たに盛土をした移転地に集団移転しました。



POINT

2

小貝川の安全性アップ

小貝川と大谷川の合流する地区に遊水地をつくり、発生する洪水を一時的に溜め込むようにしました。

遊水地のしくみ



通常時
農地、公園として利用されます。



増水時
一時的に遊水地内に水を流入させ、下流域を洪水から守ります。

POINT

3

小貝川橋の架け替え

洪水の流れを妨げ破堤の原因となった旧小貝橋を改築し、洪水の流れに支障のないようにしました。



小貝川水害復興のあゆみ



起工式



工事中の田谷川水門



開通した小貝川大橋



街づくり勉強会



盛土が完成した移転地

- | | | |
|-------|------------|--|
| 昭和61年 | 8月5日 | 台風10号による出水により小貝川で過去最大の洪水発生 |
| | 9月 | 小貝川激甚災害対策特別緊急事業の採択 |
| | 9月6日 | 小貝川激甚災害対策特別緊急事業の適用が茨城県知事に通知 |
| | 10月7日 | 建設省(当時)から下館市役所(当時)へ事業概要の説明 |
| | 11月1日 | 下館市役所建設部(当時)内に激特事業対策室設置 |
| | 11月11日～15日 | 5集落(母子島・飯田・一丁田・小釜・椿宮)に対する小貝川激特事業の説明会実施 |
| | 11月25日 | 5集落の代表者会議が開催され「小貝川激特事業推進委員会」が設立 |
| 昭和63年 | 1月30日 | 小貝川激特事業起工式 |
| 平成1年 | 9月7日 | 街づくり講演会 |
| | 10月20日 | 小貝大橋開通式 |
| 平成2年 | 2月28日 | 集団移転合同地鎮祭 |
| | 3月29日 | 集団移転地の大字名称が「旭ヶ丘」に決定 |
| | 10月7日 | 街づくり勉強会 |
| | 11月2日 | 農村集落センター起工式 |
| 平成3年 | 3月20日 | 「川の一里塚」竣工式 |
| | 7月 | 「旭ヶ丘」集団移転 |

みんなの願いがひとつに。 新しいまち「旭ヶ丘」が誕生

河川改修事業で移転地を造成し、109戸もの集団移転を行ったのは全国での初めての試みでした。5年という短期間で事業が完成したのは、移転者の方、代替地を提供していただいた地権者の方、事業関係者など「二度と災害に遭わないまちをつくりたい」という願いがひとつになったからです。新しいまちをつくるにあたって、町名の公募が行われ、総数157点より「旭ヶ丘」という新名称が決まりました。「旭ヶ丘」の総面積は14.4ha。道路、電気、電話、上下水道などライフライン整備はもちろんのこと、集会所や公園も整備されました。



旭ヶ丘の新しい町並み

洪水による浸水の危険性を知り、「いざ」というときの準備のために 浸水想定区域図

「浸水想定区域図」(洪水ハザードマップ)とは、鬼怒川および小貝川で洪水が発生し、万が一破堤した場合の浸水の恐れのある区域と、水の深さを示したものです。また下館河川事務所では、平成17年1月に設置した災害情報普及支援室を中心に、洪水時の避難場所、非難経路などの情報を示した各自治体における洪水ハザードマップ作成の技術支援に取り組んでいきます。

小貝川浸水想定区域図



閲覧はこちらで

●鬼怒川浸水想定区域図

下館河川事務所調査課・氏家出張所・伊讚出張所・鎌庭出張所

●小貝川浸水想定区域図

下館河川事務所調査課・真岡出張所・黒子出張所・水海道出張所・藤代出張所

下館河川事務所ホームページ

<http://www.ktr.mlit.go.jp/shimodate/>
トップページから「浸水想定区域の公表」をクリックしてください。

昭和61年小貝川大水害から20年 鬼怒川・小貝川 **フォトコンテスト** **作品募集**

締切せまる

7月24日(月)必着

一般の部

水害・復興の部

作品テーマ

昭和61年小貝川大水害から20年
私たちの鬼怒川・小貝川

昭和61(1986)年8月、
大水害をもたらした小貝川観測史上最大の洪水から20年。
あらためて洪水の恐ろしさを見つめ直し、
治水や水防の大切さを伝える作品、
流域の自然や文化、そこに息づく人々の暮らしや
産業などを描写した作品をふるってご応募ください。

対象エリア

- 鬼怒川流域 利根川合流点～上河内町(上平橋)
- 小貝川流域 牛久沼～益子町・真岡市境(田野橋)



審査員
写真家
織作峰子

1960年石川県生まれ。1981年ミスユニバース日本代表。その後大竹省二写真スタジオを経て、1985年、86年に全国二科展入選。1987年に独立後、北陸の風土に育まれた感性と女性の優しい視点で世界各国の美しい風景や人物の瞬間を撮り続けている。日本全国で写真展を多数開催するかわら、テレビや講演に幅広く活躍中。



ホームページからも
手軽に応募できます!



「鬼怒川小貝川フォトコンテスト」
携帯用応募サイトへ

QRコード読み取り対応携帯なら
読み取るだけですぐにアクセス
読み取り機能のない携帯の場合は
<http://www.kinukokai.jp/m/photo/>

◎作品応募先

郵送先 「鬼怒川・小貝川フォトコンテスト」事務局
〒104-0061 東京都中央区銀座2-15-2東急銀座ビル3F

ホームページ応募専用アドレス <http://www.kinukokai.jp>

応募問い合わせ先 国土交通省関東地方整備局 下館河川事務所調査課内
TEL.0296-25-2171 (受付時間/平日10:00~17:00)

応募要項

- 部門：【一般の部】フィルムカメラ、デジタルカメラを問わず、流域の自然や文化、そこに息づく人々の暮らしや産業などを描写した作品。
【水害・復興の部】フィルムカメラ、デジタルカメラを問わず、過去の洪水時やその後の復興、近年における水防活動を記録した作品。
- 作品対象エリア：鬼怒川流域【利根川合流点～上河内町(上平橋)】
小貝川流域【牛久沼～益子町・真岡市境(田野橋)】
- 応募資格：お住まい、国籍、年齢、プロ、アマチュアを一切問いません。
- 応募方法：●郵送による応募方法 所定の応募票に必要事項を記入し、印画紙プリントした作品の裏に貼って下記宛先へ郵送してください。
●ホームページからの応募方法 専用ホームページの応募フォームにしたがって画像を送信してください。ホームページから応募された作品のプリントアウトは主催者側で実施します。プリントの色味などの保証はできかねますのでご了承ください。
- 出品料：無料
- 審査員：織作峰子(写真家)、国土交通省下館河川事務所長ほか
- 発表：応募作品の中から各賞を決定し、表彰します。
発表は入選者ご本人宛の通知をもってかえさせていただきます。
- 全作品展示：平成18年8月4日(金)～12日(土) 10:00～18:00
会場/下館駅前SPICA6階 文化ギャラリー
応募全作品および織作峰子作品展示
- 表彰式：平成18年9月下旬 詳細は入選者の方々に直接連絡
- 表彰作品：一般の部 郵送による応募
【特選】1点 賞品/5万円相当の商品券 賞状・楯
【優秀賞】3点 賞品/3万円相当の商品券 賞状・楯
【入賞】5点 賞品/1万円相当の商品券 賞状・楯
【佳作】10点 賞品・賞状・楯
ホームページからの応募
【特選】1点 賞品/3万円相当の商品券 賞状・楯
【優秀賞】3点 賞品/1万円相当の商品券 賞状・楯
水害・復興の部 応募者全員に記念品贈呈
*応募者全員に応募全作品と織作峰子氏の作品を収録した作品集と参加賞を贈呈

応募規定

- 応募作品は本人が直接撮影したもので、未発表のもの、発表予定のないものに限りません。
- サイズはカラーまたはモノクロの四つ切プリント、デジタルの場合はA4または四つ切プリント(プリントのための画像処理を除きデジタルで画像処理・加工をしたものは不可)で、ただし「水害・復興の部」はサイズは問いません。いずれも単写真とし、組写真は受け付けから除外いたします。
- 入選作品のみ、後日原版(ポジまたはネガ)のご提出をお願いします。ただし「水害・復興の部」は原版がなくとも結構です。またデジタルの場合はCD-R、MOなどで画像データをご提出ください。原版のご提出がない場合は入賞を取り消します。原版は主催者が1年間使用したのち返却いたします。デジタルデータの返却はいたしません。
- ホームページから応募される写真データは一件につきデータ容量は1MB(1000KB)以下、データ形式はJPEGに限らせていただきます。プリントアウトは主催者側で実施します。プリントの色味などの保証はできかねますのでご了承ください。
- 入選作品の著作権は撮影者にあります。入選作品は主催者側が催す展覧会、制作する写真集、パンフレット、電子媒体に使用することがあります。また広報活動として新聞、雑誌、テレビなどに使用することがあります。使用に当たっては撮影者の氏名を公表します。
- 人物を撮影した作品の場合は、その方の了解を得てください。
- 他人の著作物を撮影したり、それを素材にして作品を合成したりすると、著作権の侵害に当たる場合がありますので注意してください。
- 応募いただいた作品は返却いたしません。 ●応募は一人3点までとします。 ●原則として一人一賞とします。
- この「応募規定」に反したものは選考の対象とならない場合がありますので、ご注意ください。
- 個人情報保護法の規定により本フォトコンテストに応募された方の個人情報、当初の目的以外に使用しません。

防災・減災フォーラム2006 in 茨城

小貝川大水害から20年～洪水から自らをどう守るのか～

日時/平成18年8月4日(金) 13:00～16:00

開場/13:00 開会/13:30

閉会/16:30

会場/スピカ6階 コミュニティプラザ下館駅前再開発ビル 筑西市田中町丙 360番地

■ビデオ上映 2005年 自然災害の記録・小貝川水害「あれから20年」

■基調講演

地域の防災力を高めるために 山崎 登(NHK解説委員)

■パネルディスカッション

小貝川大水害から20年～洪水から自らをどう守るのか～

パネリスト

富山 省三(筑西市長)

富田 宏司(筑西市消防団副団長)

山崎 登(NHK解説委員)

成田 一郎(国土交通省下館河川事務所長)

関根 静子(筑西市ボランティア連絡会会長)

コーディネーター 寺内洋二(茨城新聞社論説委員)

※敬称略・順不同

参加お申込方法

参加希望の方は、郵便番号、住所(参加証送付先)、氏名、電話番号、参加人数をご記入の上、ハガキ、FAX、またはメールを利用してお申し込みください。

締め切り/7月27日(木)

※定員(260名)になり次第、締め切らせていただきます。

※参加者には折り返し、「参加証」をお送りいたします。当日は受付にて「参加証」をご提示の上、ご入場いただきます。

※応募者の個人情報は、「参加証」の発送など、当フォーラムの運営のみに使用します。

参加無料
先着260名

お申し込み・お問い合わせ先

茨城新聞社企画開発部「防災・減災フォーラム」係

〒310-8686 水戸市北見町2-15

TEL 029-221-3158 (土日除く9:00～17:00)

FAX 029-221-3126 (24時間受付)

E-mail event3@mail2.ibaraki-np.co.jp (24時間受付)

会場案内図



★JR水戸線「下館駅」北口、徒歩すぐ

■主催 茨城新聞社/全国地方新聞社連合会

■共催 鬼怒川・小貝川サミット会議

■後援 国土交通省/茨城県/筑西市/(社)土木学会/(社)日本災害情報学会/共同通信社/NHK水戸放送局

■賛助 (社)関東建設弘済会



第7号 2006 summer

※rio [リーオ]とはスペイン語で「川」という意味です。

編集発行 「鬼怒川・小貝川サミット会議」事務局・国土交通省 下館河川事務所
〒308-0841 茨城県筑西市二木成1753 0296-25-2171 (調査課)

●[リーオ]はインターネットホームページでもご覧いただけます。

[下館河川事務所HP] <http://www.ktr.mlit.go.jp/shimodate/> [E-mail] shimodate@ktr.mlit.go.jp

表紙写真/昭和61年小貝川水害・小貝川激特事業旭ヶ丘集団移転記念碑

●このパンフレットは再生紙を使用しています。